

令和元年 5 月 30 日  
三菱総合研究所  
武田洋子

「ニッポン一億総活躍プラン」フォローアップ会合・働き方改革フォローアップ会合  
合同会合 提出資料

・本年 4 月から働き方改革関連法が順次本格施行されていることは、働き方改革にとって大きな前進。残された課題についても、実行計画に沿って着実に進めて頂きたい。

1. 多様で柔軟な労働市場の実現に向けた取り組み

・柔軟な労働市場の実現に向けて、「FLAP」サイクルを形成する必要。「FLAP」とは、個人が技術革新によるタスクの変化と自分の適性を知る (Find)、必要な知識を学ぶ (Learn)、目指す方向へ行動する (Act)、新たなステージで活躍する (Perform) 循環。

・技術革新が進展し、社会構造が変化する中で、個人には学び挑戦する動きが、企業や政府には雇用慣行や制度を時代に見合ったものへと進化させる動きが求められる。

・具体的には次の 4 点が鍵と考える。

- (1) 職業情報の「みえる化」による個人の気づき
- (2) 実効的な教育・学び直し
- (3) 能力や成果に基づく評価・報酬制度
- (4) 中途採用が不利にならない企業慣行や労働移動に中立な退職金・年金制度

2. 就職氷河期世代に対する支援の強化

・健全な経済社会の観点から、就職氷河期世代に該当する 30 代半ばから 40 代半ばの無業者、長期不安定就労者に対する地域での就職支援、職業的自立の促進が必要。

・同世代では、希望する職業・業種に就職できなかった者も多い。中途採用が不利にならない企業慣行や労働移動に中立な制度は、「世代間の格差の固定化」を和らげる。

以 上